

透明な体や変なかたち!こんな生き物見たことない! 海の中はふしぎがいっぱい!

はるか遠く、青く広がる海は、実に多くの生き物を育ててきました。

きらきらと輝く海面から水深200m以下の世界は“深海”と呼ばれ、太陽の光も十分に届かない暗い海が広がります。高い水圧、冷たい水、少ない酸素、そして暗黒。この過酷な環境から、深海は生き物の生存が難しいと考えられていました。しかし、科学技術が進歩し今までより深く潜れる探査機が開発されるようになると、その暗く深い海にたくさんの生き物が棲んでいることが分かってきました。

深海の厳しい環境に適応するため、生き物は驚きの独自進化を遂げています。その想像を超えたふしぎな生き物たちの姿を目の当たりにした時、海と生命の神秘にきつと驚くことでしよう。

今回の展示ではその驚きの生き物たちを始め、近年の科学技術の進歩により解ってきた、たくさんの海のふしぎをご紹介します。



カミクラゲ
(写真提供: 三宅裕志 北里大学海洋生命科学部)

速報! シーラカンス稚魚(標本)を展示!



シーラカンス稚魚 プラスティネーション標本
(国際科学振興財団・岡田典弘博士より借用)

驚きの海の生き物に生体、写真、標本の姿で出会う!深海生物追跡調査ロボットシステム「PICASSO」など、探査技術の最前線を紹介!

海の生き物の展示に加え、最新の調査技術もご紹介します。調査船が深海の底で見つけたものは一体なんでしょうか? 深海に棲む「サケガシラ」「ミツクリサメ」や「ラブカ」の標本も展示します。「海をつかう」というテーマでは、海洋生物由来の成分が医薬品や食品に広く使われている様子を展示します。

生態の
不思議

深海への
適応

豊かな
海を支える
生き物

海をつかう
海からの
贈り物

海洋調査

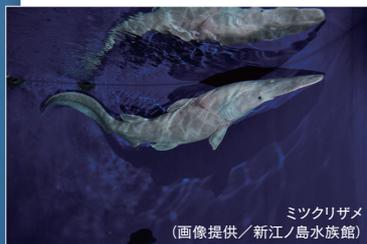
海の
深いところまで、
あらゆる角度から
見てみよう!



ハイナツフルウミウシ
(写真提供: 三宅裕志 北里大学海洋生命科学部)



フロガイ
(写真提供: 三宅裕志 北里大学海洋生命科学部)



ミツクリサメ
(画像提供/新江ノ島水族館)



ラブカ
(画像提供/新江ノ島水族館)

ワークショップや体験会がいっぱい!

タッチプール

イトマキヒトデ、ナマコ、ウニ、タコノマクラなど
姿形は全然違うけど、同じ仲間なの? 共通の特徴を探してみよう。

サメ類

魚ってどんな手触り? 同じ魚でも手触りが違うことを感じよう。

たとえば



深海生物追跡調査ロボットシステム「PICASSO(ピカソ)」
(C) Biopixel/JAMSTEC

※入館料のみでお楽しみ頂けます。
※開催スケジュールや参加方法などは、科学技術館のウェブサイトをご覧ください。
※その他プログラム詳細については、別途ウェブサイトをご覧ください。

上記内容は、予告なしに変更される場合があります。